

現場看護師の手記

新型コロナ相談外来（当時） 看護師 松澤 愛衣

1. はじめに

本稿では、現場でCOVID-19に対応した潜在看護師として、僭越ながら、新潟市医師会新型コロナ相談外来と大規模ワクチン接種を振り返るとともに、今後の感染症危機対応における潜在看護師の活用可能性について記述する。

2. 新潟市医師会新型コロナ相談外来について

ドライブスルー方式で運営される新潟市医師会新型コロナ相談外来が2020年6月1日から新潟市内に開設されることになった。

当時は未知のウイルスを恐れるがあまり医療従事者への差別があり、知人からもコロナに係る仕事なんて大丈夫なのかと心配されることもあったが、他の医療従事者が大変な思いをしている中、潜在看護師の私がやるしかないと思い、多少の不安もあったがナースバンクの求人に応募した。

医療調整本部からの徹底した感染対策指導や、現場の要望等にすみやかに対応頂けた市医師会職員の皆様のおかげで不安なく業務に従事でき、また、冬の感染拡大や気候を見越し屋外に大型ガレージを設置いただけたため、冬季は悪天候下でも安定して検査を行うことができた。

3. 大規模ワクチン接種について

ワクチンが開発されたことはこれまで防戦一方であったCOVID-19対策に希望が見えた瞬間であり、県はワクチン接種体制構築の起爆剤として2021年6月12日の朱鷺メッセを皮切りに大規模接種を順次開始すると発表した。

私は感染拡大が続く中、もう少しだけでも力になれることはないかと大規模接種へ応募した。

朱鷺メッセは最終的には1日5000人が接種可能な全国でも有数の大規模接種会場であり、また私自身久々の筋注であったため、接種が滞り来場者を大幅に待たせてしまうのではないかと

不安もあった。

しかし、県の大規模接種会場は、潜在看護師への筋注指導も事前に行われ、イレギュラー事案にも迅速に対応できる各セクションリーダー等が配備されたため、良い意味で大規模接種の歯車として不安なく働かせていただいた。

大規模会場や各医療機関、市町村会場での接種により、一時、本県の接種率は全国一位を記録した。コロナ対応を行ってきたよかったと思えた瞬間であった。

4. 宿泊・自宅療養患者への健康観察について

宿泊・自宅療養患者への健康観察については、私が行った業務ではないが、依頼を受けたので伝聞ではあるが記載する。

宿泊・自宅療養においては、看護職員が電話等を用いて療養者の健康観察を行うとともに、必要と判断した場合にはオンライン診療医へ繋ぎ、診察が実施されるよう調整する。

さらに、健康面以外にも日々様々な相談や悩み、不安等が寄せられ、一筋縄では解決できない問題も多々あったが、その都度、看護職員同士や薬局、オンライン診療担当医や医療調整本部の事務や医師等と連携をして丁寧に対応を行うことで、少しでも療養者が安心して療養できるよう尽くしてきた。

最大1日30名程度の看護職員が宿泊・自宅療養患者への健康観察にあたったが、感染者数の急増により業務は深夜にまで及んだこともあった。大変なことも非常に多かったが、我々が支えた「オール新潟」の宿泊・自宅療養によって、その目的である医療崩壊を防ぎ、県民の命を守ることについて一定の成果を上げることができ、大変嬉しく思う。

5. 今後の感染症危機への対応について

感染症危機においては、医療供給に対し医療需要が大きく上回る恐れのある事態が生じるた

め、私のような潜在看護師の活用は医療ひっ迫を回避する1つの手段であると考える。

しかし、潜在看護師は普段、医療から離れ生活しており、感染対策や手技に多少の不安があるため、潜在看護師を活用する際には技術的支援が必要となる。

今回のCOVID-19においては、市医師会や医療調整本部より感染対策や鼻咽頭からの検体採取方法、三角筋への筋注方法について丁寧な指導があり、安心して業務に挑むことができた。

今後の感染症危機においても潜在看護師の活用にあたっては技術的支援を考慮いただけると

幸いである。

6. さいごに

今回のCOVID-19対応は、私も少しばかり「オール新潟」の取組みに貢献できたことや普段何をしているか不明な行政の仕事を垣間見たことなど大変貴重な体験をさせていただいた。

編集者の先生方をはじめとした県及び市の医療崩壊を防いでいただいた全ての先生方、各現場を指揮いただいた先生方や市医師会職員の皆様、医療調整本部等の皆様には深く感謝申し上げます。